

クラーク・サンダーズ

1 クラーク・サンダーズとメイ・マーガレットが
緑の園の砂利の小道を歩いていました
二人の恋は
つらく悲しい恋でした

2 「ベッドへ ベッドへ」とサンダーズ
「二人が眠る ベッドへ ベッドへ」
「いいえ いいえ それはダメ
ちゃんと結婚するまでダメよ

3 「七人の兄さんたちが
赤々と松明燃やしてやつて来て
たつた一人の妹が
誰か騎士と寝て いる となじるでしょう」

4 「ぼくの鞘から刀を抜き取り
それでそつと掛け金はずし
誓いをたてて言うがよい
サンダーズを決して中には入れなかつたと

5 「ナップキンを取り出して
両の目をしつかり隠し
誓いをたてて言うがよい
昨日からサンダーズには逢つていないと

6 「両の腕にぼくを抱きあげ
ベッドまで運んできれて
誓いをたてて言うがよい
あの方は決して部屋に踏み込まなかつたと」

7 マーガレットは 鞘から刀を抜き取つて
それでそつと掛け金はずし
誓いをたてて言いました
「サンダーズを中には入れていません」

8 ナップキンを取り出して
両の目をしつかり隠し
誓いをたてて言いました
「昨日からサンダーズには逢つていません」

9 両の腕にサンダーズを抱きあげて
ベッドまで運んでいつて
誓いをたてて言いました

その目はどんより うつろな様子

二人とも寝汗をかいて

ベトベトしていると思ひきや

それは 体から流れる血

恋人はもう 息絶えているのです

「ああ サンダーズ あなたのために

ほかの女ができることをいたしましよう

七年という間 靴を履かずに暮らします

「ああ サンダーズ あなたのために

ほかの女が悪夢と思うことをいたしましよう

七年という間 髪を梳かずに暮らします

「ああ サンダーズ あなたのために

ほかの女が馬鹿と思うことをいたしましよう

七年という間 悲しい喪服で暮らします」

死体を墓場に運ぶ合図に

弔いの鐘が 町中に鳴りました

メイ・マーガレットがため息ついて つぶやきました

「ああ なんという悲しい日」

床踏み鳴らして

父親が入ってきました

・・・・・

床踏み鳴らして

父親が入ってきました

・・・・・

床踏み鳴らして

父親が入ってきました

・・・・・

「いとしい娘よ 泣くのはおよし
悲しみは 忘れておしまい
死体を墓場に運んでいって
戻ってきたら 慰めよう」

「七人の兄さんたちを慰めて

わたしを慰めても それは無駄

昨夜一緒にお部屋にいたのは

身分違いの者ではなくて わたしの愛する騎士でした」

(山中光義訳)

26

25

24

23

22

21

20

19

